

研究構想シート		学校名	出雲市立塩冶小学校
		氏名	高橋 葉子
A 研究主題		思考をつなげ、学びを深める児童の育成	
B 研究の目的 ①「見方・考え方」をはたらかせながら学習活動を展開することによって、児童の学びに向かう意欲（主体性）と思考力を高める。 ②児童の学びを深めるためにどのような工夫を行うとよいか、互いの授業実践から学び合い、教職員の日々の授業改善に活かす。			
C 子どもの実態 ●課題解決の見通しがもてる児童とそうでない児童の差が大きい。「どうやって課題解決を図ったのか」見方・考え方を積み上げがることの必要性を感じる。 ◎考えることが明確であれば、自分の考えをもってそれを表現しようとする力は伸びてきている。 ●他者との対話によって考えが広がったり確かになったりすることがあるととらえ、対話の必要性を感じてはいるが、思考の練り上げまでには至らないことが多い。	E 手立て・内容(研究仮説) ●「見方・考え方」で子どもの思考をつなぎ、考える視点を明確にしてめあてや活動内容を設定すれば、考えたことを進んで伝えようとする、主体的な子どもが育つであろう。 くめあて設定に至るまで ・既習事項（既習の方法）（他教科で学んだこと）が使えないか考える。 ・着目したい「見方・考え方」をつかみ、自分の考えがもてるようにする。 ●授業において、他者との対話の場面を活性化させるための手立てを工夫すれば、思考の練り上げにつながり、学びを深める児童が育つであろう。		D めざす子どもの姿 ●「見方・考え方」をはたらかせることによって、自分の考えをもち、それを伝えようとする子ども ＝主体的に学習に取り組む子ども ・何に着目して考えるといいか、見通しをもって授業に取り組んでいる。 ・何ができるようになったのかをつかみ、それを他の場面でも活用しようとする。 ●対話的活動によって、思考が変化したり、より確かな根拠をもったりすることができるようになる子ども ＝学びを深める子ども
	F 検証方法 研究の目的①および研究の具体仮説（上記）についての検証 ・・・教職員アンケートをとり、児童の姿の変容をとらえる。 （これまでの研究で行っている教職員アンケートの結果と経年比較もできる） 研究の目的②について ・・・各実践の際に記入する、「日々の授業に活かしたいこと（プラス1したいこと）」の内容を分類し、児童の学びを深めるための具体的な手立てや工夫について、共通理解を図る。		
C 教職員の实態 ・職員数が多く、これまでは各学年で代表になった先生の授業しか見ることができなかった。（代表になる先生は、どうしても若手の先生に偏りがちになり、若手の先生方にとっては負担感を感じることもあった） ・担任外にも専科や日本語指導担当の形で指導にあたっておられる先生方がおられるが、その指導を見て学ぶ機会がなかった。 ・（一部）教科担任制がはじまり、受け持ち教科が人によって違うようになった。（⇒研究したい教科の希望にばらつきがある） ○1人あたりの受け持ち時数が減り、空き時間をもちやすくなっている。 ○これまでの研究により、めあての提示にいたるまでに、何に着目したらいいのかを引き出すことや、着目点を明確にした対話を設定することへの意識をもって授業を組み立てている先生が多い。（この意識を継続したい）	G 研究計画 ○年度はじめの研究職員会議にて * 研究構想の説明・授業改善についての意見交換会 ○6月～1月 実践 * 教科・領域は各自で設定し、1人1実践以上を公開する。 * 代表授業については、指導案検討を学年部（+研究主任）で行う。研究協議は計画に沿って他学年の教員を交えて行う。 * 他の授業については、学年部で取組の紹介をした上で、公開授業を行う。指導案および感想用紙はデータにて送付し、自由公開とする。研究協議は学年部で行う。 * 協議後には、指導案に成果と課題を加筆し、データを保管する。 * 研究協議で挙げた「プラス1」を掲示して「見える化」し、全体共有を図る。 ○8月 職員研修会の実施 * 「見方・考え方」についての理解を深め、授業改善に活かすために、講師をお招きして研修会を開催する。 ○年度後半の研究職員会議にて * 「プラス1」でどのようなことが挙げたかを分類し、次年度にはどのような点に重点を置いて授業改善に取り組むか、方向性を決めておく。 * 検証結果も加えて研究の成果と課題をまとめる。 ◆本研究の研究計画について * 2年間で取り組む「授業改善プロジェクト」として研究を推進する。 * 今年度は、「見方・考え方」に焦点をあてた授業づくりを、どの教科でも実践していくことを働きかけ、さまざまな教科の指導にあたる「小学校教員」として、見識を広げることがめざす。 * 次年度は、特に「児童の学びを深めるためにはどのような手立てを工夫するとよいか」重点とする手立てごとにグループを作り、それぞれのグループ研究での成果を共有することで、授業改善を図りたい。		D めざす教職員の姿 ・たくさんの先生の実践から学び、自身の教科指導に生かしたり、見識を広げたりすることができる。 ⇒先生方それぞれの専門性を高め、モチベーションアップを図る。 （例：○○の指導の重点がつかめた） ⇒授業づくりについての会話や情報交換をする職員関係を築く。 （例：○○の教科指導のことを□□先生に相談してみよう） ・授業力向上のために、どんなことを意識していきたいか（どの点に力を入れて授業改善をしていきたいか）を1人1人が自分事として考える。 ⇒学年・教科の枠を超えて、授業づくりについての会話や情報交換をする職員関係を築く。